

平成29年度 第1回 芦屋市地域包括支援センター運営協議会 会議録

日 時	平成29年6月8日(木) 13:30~15:00
会 場	芦屋市消防庁舎3階 多目的ホール
出席者	<p>会 長 石川 久展 副 会 長 長澤 豊 委 員 高木 佐知子・西村 京・神田 信治・佐野 武・脇 朋美 加納 多恵子・田中 航次・安宅 桂子・寺本 慎児 欠席委員 菅沼 久美子</p> <p>地域包括支援センター 芦屋市西山手地域包括支援センター 杉島 美也子・鈴木 珠子 芦屋市東山手地域包括支援センター 税所 篤哉・古田 明代 船寺 恵子 芦屋市精道地域包括支援センター 成宮 正浩・小阪 明 田中 裕美 芦屋市潮見地域包括支援センター 小林 浩司・加藤 保博 大島 眞由美</p> <p>事 務 局 福祉部高齢介護課 篠原 隆志・小林 明子・松本 匡史・井村 元泰・篠崎 紘志 正好 隆裕・北次 佑有 福祉部社会福祉課 小川 智瑞子 福祉部地域福祉課 細井 洋海・浅野 理恵子</p>
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開
傍聴者数	なし

1 議題

- (1) 平成28年度地域包括支援センター活動実績報告について
- (2) 平成29年度地域包括支援センター活動計画について
- (3) 平成29年度地域包括支援センターの予算について
- (4) その他

2 資料

- 資料1 平成28年度活動実績報告書
- 資料2 平成29年度活動計画書
- 資料3 平成29年度予算書
- 参考資料① 用語解説
- 参考資料② 芦屋市町別・圏域別高齢者人口，芦屋市圏域別高齢化率
- 参考資料③ 各圏域の概況
- 参考資料④ 平成28年度芦屋市認知症地域支援推進員活動報告

3 審査(議)内容

上記の議題について事務局より報告，説明し，委員に意見聴取する。

開 会

- 1 平成28年度地域包括支援センター活動実績報告について

「平成28年度活動実績報告書（資料1）」について、事務局、各地域包括支援センターより説明。

（石川会長）

皆様のほうからご意見、ご質問がありましたら、よろしくお願ひします。

では私のほうから、どこのセンターも職員の交代が結構あるようですけれども、私の専門の社会福祉のほうでも、例えばある社会福祉士などは1年目に地域包括支援センターに採用されることがあるのですね。そうすると、大学卒の22歳の若者がいきなり地域包括支援センターのことがわかるわけがない。それで1年もたたずに辞めてしまうことがあり、非常に深刻な話を社会福祉士会からも聞いています。辞められる理由はさまざまあるのですが、特に交代があるのは、社会福祉士だけではないと思ひますが、いろいろな研修などをやっておられたら普通は防げるはずです。個人的な要因もあるでしょうけれども、その辺について何かご意見等がありましたらお伺ひしたいと思ひます。辞めるということは毎回同じことの繰り返しです。毎回研修をし直すということで永遠にこの問題が解決できないことになると思ひますが、その辺は結構深刻な問題です。職員交代がいいか、悪いか、難しい問題ですけれども、先ほど言ひましたように若い職員を採用するところが多いので、そういう人は本当に経験がないから、どんどんストレスがたまっていくという話をお伺ひして思ひますが、いかがでしようか。

（西山手高齢者生活支援センター）

西山手高齢者生活支援センターのセンター長の杉島と申します。西山手高齢者生活支援センターの状況について説明させていただきます。昨年度、社会福祉士が入れ替わったことにより現場が混乱して思ひますが、ご家庭の事情であったり、個々の事情であったりというところではあります。ただ、社会福祉士を初め職員の交代というところになりますと、やはり一から全て同行で繰り返し伝えていかなければいけない。ようやく育ったところで退職されるということになりますと、残っている職員のモチベーションにもつながらない。退職する職員の事情はさまざまであっても、退職される側の精神的な部分もありますし、残っている職員のモチベーションということもありますので、職員がかわるといふことに関しましては、やはり問題が大きく、センターでも丁寧に指導しているところではあります。どのようにすればいいかという明確な対応までは行っていません。ただ、悩みや問題を抱えているという部分は日ごろの様子などから、面談などを行い、早期に対応するように心がけて思ひます。

（加納委員）

今、西山手高齢者生活支援センターが言われましてけれども、先日、三条集会所での春のつどいにいらしたお若い男性職員はいらっしやいますか。

（西山手高齢者生活支援センター）

はい、おります。

（加納委員）

そうですね。私にとっては初めてお会いする若い男性でいらして、ちょうど私が総合事業について皆さんに話をしてほしいと頼まれて思ひましたから、私1人よりも、やはり高齢者生活支援センターと一緒に話したほうがずっといいと思ひまして、もう1人社会福祉協議会の地域担当をしている女性と3人で総合事業について皆さんにお話をしたのです。「まず、西山手高齢者生活支援センターのあなたがお話しして」と言ひて、順番は高齢者生活支援センター、そして社会福祉協議会の若い女性、そして最後に私というふうになつタッチして、15分で話をしました。5分、5分ぐらいの間隔でやりましょうと最初の打ち合わせだけをしたただけでしたが、上手になさ思ひまして、感心しました。今の若い方は、いざとなつてもちゃんと話してくださると、私はとてもうれしく思ひました。高齢者生活支援センターは一番民生委員や社会福祉協議会にとって、地域にとつても相談のかなめになる機関ですので、そういう意味では地域も育てていくというか、一緒に協力していく責任があるのだなど、

すごくうれしく思ったのをつけ加えさせていただきます。

(事務局 小林)

高齢者生活支援センターの体制のことですが、芦屋市では独自にスーパーバイザーを各センターに1名配置しています。この方が職員一人一人のサポートですとか、管理等をしまして、気になる方については職員のマネジメントということで面談等もしていると聞いています。

(石川会長)

職員それぞれご事情があるので、かわるなというのは無理なのですが、社会福祉士会等を通して聞くのは、やはりしんどいということです。介護職と同じぐらい、今いろいろな事業を進めており、制度が改正されて変わっていく中で職員も大変だという話を聞いています。そういうところでどうやって燃え尽きないように、一緒に継続的な事業をしていくかということは非常に大きな課題だと思います。スーパーバイザーを置くのは非常にいいことだと思いますが、それがさらに機能して、なるべく職員が交代しないで、しかも個人の事情ではなく燃え尽きて辞めていくのはなるべく避けていったほうがいいのではないかと個人的には思っています。ほかにありますか。

(神田委員)

ケアマネジャー友の会の神田です。4番の包括的・継続的ケアマネジメント支援業務のところに当たるかと思いますが、地域ケア会議の開催について記載されているセンターと、していないところがあるのですが、記載している精道高齢者生活支援センター、潮見高齢者生活支援センターに関しては1件ずつの開催ですね。なかなか開催が難しいということは前回からお聞きしているところですが、ほかのセンターは開催が難しかったのかということと、それから今、国や県のほうでも地域ケア会議は地域包括ケアシステムの重要な一部分でもあると言われていますので、開催に当たってセンターのほうから「やりましょう」というふうに声かけをするのか、ケアマネジャーのほうから「やってください」というふうに言って開催するのか。最初がどうだったのかということのをいま一度確認したいと思っていて、そこについてお答えいただければと思います。

(西山手高齢者生活支援センター)

西山手高齢者生活支援センターの保健師の鈴木です。西山手に関しては3件です。一つはケアマネジャーから声かけはあったかと思いますが、高齢者生活支援センターのほうからも「必要性があるよね」というところで自然に会議をしなければいけないという雰囲気盛りが上がって開催に至りました。もう一つは高齢者生活支援センターから働きかけて開催に至りました。今後、考えているのは、例えば虐待対応で地域で見なければいけないケースに関しては定期的に開いていく必要があるかなと考えていまして、また今年度も何件かは開催を計画しています。

(東山手高齢者生活支援センター)

東山手高齢者生活支援センターの古田です。昨年度は1件でしたが、介護保険にやっとながって、ケアマネジャーにケアマネジメントを始めてもらうに当たって、その方が地域で見守っていかなければいけない方だったので地域ケア会議にしました。ケアマネジャーにその方の支援を始めてもらうときに地域包括支援センターから投げかけて地域ケア会議にしたように思います。ケアマネジャーからのリクエストで開催したことが過去にはあります。

昨年度は1件で、本当は、この方に関してはもう少したくさん開催したいというのが何件かあったのですが、それと同時に支援も並行して行っていて、入院になってしまったり、施設入所になってしまったり、大変なケース、困難事例と言われるケースを目的としていたのですが、そういうケースこそ動くのが早くて具体的な支援につながってしまったという結果が多かったように思います。今年度も地域ケア会議をなるべく開催できるように、ケアマネジャーへもアプローチしていきたいと思っています。

(精道高齢者生活支援センター)

精道高齢者生活支援センターの成宮です。精道では昨年度1件開催しましたがけれども、その1件については、実は自分自身が担当しているケースでかかわっている方に集まっていたら情報共有しようという会議で、ケアマネジャーからの要請でやったものではありませんが、別にどちらからしかけるといってもいいですし、地域包括支援センターとケアマネジャーがかかわる中でそういう方向ができればいいものではないかと思っています。

(潮見高齢者生活支援センター)

潮見高齢者生活支援センターも1ケースでしたけれども、私自身がしたらいいのかなと思ったり、それから地域の方から「開いてもらえないか」と言われたケースはこれ以外にも実はありました。地域の方から言われたケースに関しては、先ほどのお亡くなりになった方のケースですが、やはり間に合わない。総合事業の移行期で3月、4月は忙殺されていまして、そういう期間に持つことは私たち自身もできなかつたのです。それでもケース自体は動いていたのですが、ケアマネジャーの協力とか、そういったことにつないでいる間に事態が進んでいくことが非常に多いかなと思います。

(石川会長)

そのほかにありますか。では、次の議題に移らせていただきたいと思います。

2 平成29年度地域包括支援センター活動計画について

「平成29年度活動計画書(資料2)」について、事務局、各地域包括支援センターより説明。

(石川会長)

それでは、皆さんのほうからご意見、ご質問等がありましたらよろしくお願いします。

(西村委員)

先ほど潮見高齢者生活支援センターの大島さんの話を聞いていて、私はとてもうれしかったのですが、やはり地域包括支援センターの職員だけでは早期発見はすごく難しいと思いますが、隣近所の方は気づいているのですよね。気になる声がずっと聞こえているとか、物音が聞こえているとか。私は思うのですが、民生委員と福祉推進委員と自治会の各班長も呼んでもらえるような話し合いにしてもらえると、その地域で「おかしいな」と気づいている班長はいっぱいいると思います。しかし、どこに言えばいいのかということなぜか知らない市民が多く、福祉推進委員になったことで地域包括支援センターがそういう困り事の相談を受けてくれる窓口だと知ったという話を、ついこの間、私は聞いたのですよね。ということは、まだまだ知らない人がいっぱいいることを感じているので、各地域包括支援センターが市民と一緒に話し合う場を積極的につくっていただけると、「おかしいな」と感じることが、どんどん声として挙がっていくのではないかと考えています。よろしくお願いします。

(石川会長)

ありがとうございます。ほかにありますか。

(加納委員)

ケアマネジャーと民生委員とのつながりを強調して各高齢者生活支援センターが説明してくださっているのですが、そのもともとの始まりはケアマネジャーの方の質の向上とありますか、それを願って民生委員は、いろいろ、利用者の方から「うちのケアマネジャーは」という苦情を聞きますので、それで顔合わせ的な会をしたらどうかと言ったのが、もう何年も前の話です。民生委員の改選で延期ということもここに書いてありますが、延期しても別に困らなかったのではないですか。それと、今年「福祉を高める運動」でそういう事例はたくさん出ましたか。出ていないでしょう。もうそういう時代を通り越しているように思

いますので、余り気になさらないで、もっと大事な方向で進んでいただいで結構ですよと私は言いたいのです。私自身が民生委員をしていたときに言ったことなので責任を感じているのです。毎年「福祉を高める運動」で大体300ぐらいのケースを民生委員が挙げてきます。それで皆さんも参加してくださっていますが、「ケアマネジャーがこうで、こうで」という愚痴っぽいものがなくなって、それもケアマネジャー友の会や芦屋市介護サービス事業者連絡会のお力もあるかと思えます。

(石川会長)

ありがとうございます。ご意見ということで、ほかにご質問はありますか。

(安宅委員)

実は私もそれは思っています。民生委員や自治会の会長の方は割と身近にいらっしゃいますので、そういう方から情報を挙げられると思うのですね。つい最近、東山手高齢者生活支援センターの方にお世話になったのですが、直接、同居していない親戚の方には言いづらいことを、民生委員を通して「どうしたらいいでしょうか」とご相談したのです。そうしましたら高齢者生活支援センターにつなげていただけたのですね。

地元の自治会長の方が、かなり困ったケースがあるけれども、情報共有できないということで嘆いていました。その辺をもう少し身近な形でつなげられるようなシステムができれば、もっと情報が集まるのではないかと思っています。先ほどのお話でも高齢者生活支援センターは敷居が高いということで、やはり一般の方はわかりづらいと思います。ですから、身近なところから情報を集めていただけたらいいと、このごろすごく思うようになりました。

(石川会長)

貴重なご意見をありがとうございます。

(田中委員)

今、地域が幅広いといいますか、いろいろな方を巻き込んで意見を聴取したらいいのではないかというお話がありましたけれども、これはかなり個人情報扱うことになります。民生委員は守秘義務を負っていますので、そこに巻き込まれるのは当然といいますか、それはいいと思いますが、余り全員を巻き込んでというのは、言葉としてはいいのですが、できないことのほうが多いのではないかと思います。

(西村委員)

私が思っているのは、1つの具体的なケースではなく、例えば事例を挙げてもらって、こういう場合の窓口は高齢者生活支援センターですよとアピールしてほしいのです。自治会の班長レベルで。そうしたら、きっと近所は並びだから、夜、しーんとしているときに気になる声が聞こえている家が多いと思っているのです。

(石川会長)

いずれにしても両方とも大事な意見で、私も民生委員の声をいろいろ聞きますけれども、個人情報をもたらえないという問題もあって、それで苦勞されている民生委員も以前のメンバーでいらっしゃいました。地域の情報を集めるのがなかなか苦しいと、情報が欲しいということをよくおっしゃっていました。やはり個人情報の話が必ず出てきて、国のほうが「一億総活躍」とか「我が事・丸ごと」とか言って、地域全体で取り上げろということで、これからいろいろな対策を考えていく必要があります。そういうことも含めて地域包括支援センターはその中心になると思いますので、業務量が多くて大変だと思いますが、皆様の意見を聞いていただいで、それをうまく地域の中での問題も並行して対応を考えていただきたいと思えます。

時間の関係上、次に移らせていただきたいと思えます。

3 平成29年度地域包括支援センターの予算について

「平成29年度予算書(資料3)」について、事務局より説明。

(石川会長)

この件について何かご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

(佐野委員)

先ほどの説明を聞きますと、委託対象と対象外は部門を分けて計上されているのはわかるのですが、そうすると、例えば精道高齢者生活支援センターはトータルで1,200万の事業で、予算段階で500万以上の赤字ということで、東山手高齢者生活支援センター以外は事業として成り立つのかなと心配になるぐらいですが、このあたりは当然法人がこれでやってくださいという予算なのか、それとも今、予算上はこの金額だけれども、今後例えばこういう状況では困るから、もう少しこうしてくださいという依頼といたしますか、指導が入ったりするのか。この予算計上だけを見ると、こういうのでやっていけるのかと純粋に心配なのですが、この500万円の赤字はどこから出てくるのかという話ですが、よろしいでしょうか。

(事務局 篠原)

西山手、精道、潮見高齢者生活支援センターは対象外経費である、要支援1・2のケアプランについては赤字が出ているということでご意見を言っていただきました。これにつきまして事前にそれぞれの法人には確認しまして、精道高齢者生活支援センターにつきましてはプランナーの人件費の昇給等を見込んでいるということでお伺いしています。個別のところはそれぞれの高齢者生活支援センターから説明させていただきます。

(精道高齢者生活支援センター)

私どもの法人では、早い時期に予算立てをしまして、実際にはもう少し収支が改善して、法人の中のほかの事業と相殺することで何とかやっていける事業と見込んでいるところです。

(石川会長)

よろしいですか。その赤字を見込んだ予算を法人が、もう立てているということですね。なるべくその差を埋めるということですね。ですから、実際に予算書に計上しているよりはもう少し赤字額が小さくなるという説明だと今、お伺いしましたけれども、それでよろしいですか。

(佐野委員)

予算として厳しく見ているということですね。

(石川会長)

そうですね。

(佐野委員)

わかりました。

(石川会長)

ほかにご質問はありますか。

(神田委員)

4番の地域ケア会議運営費が精道高齢者生活支援センターのみに計上されています。ただ地域ケア会議は他のセンターもしなければならぬはずですが、この辺のお金の流れであったり、会議運営費というのはどういうものを指すのかということについて教えていただけたらと思います。

(事務局 小林)

各センターでは現状、個別ケースの検討にとどまっていますので支出が発生しないのですが、精道高齢者生活支援センターは市全体での課題解決をテーマとした地域ケア会議を基幹的業務担当が主催で開催する予定のため、講師謝金と旅費を見込んで10万円を交付しています。

(石川会長)

ほかにありますか。なければ時間の関係上、これで終わりたいと思います。

4 その他

(石川会長)

それでは、その他ということで事務局のほうで何かありますか。

(事務局 篠原)

はい。次回につきまして事務局のほうからご連絡を差し上げます。次回は第2回を、8月10日の木曜日、1時半から開催予定としています。今回は平成28年度の活動実績報告や平成29年度の計画をお伝えさせていただきましたが、次回は具体的な実績の数値や決算についてご報告させていただきたいと思っています。あわせて8月10日に地域密着型サービス運営委員会を開催するかどうかは現在未定でして、もし開催することが決まりましたら、あわせて早々に皆様にご連絡をさせていただきます。以上です。

(石川会長)

それでは、今年度の第1回地域包括支援センター運営協議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

閉会